

ご案内

第2回 国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム

2nd International Collaboration Forum of Human Gene Therapy for Genetic Diseases

謹啓、平素より大変お世話になっております。

さて、昨年度より開催いたしております国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラムを、今年度も諸先生のご配慮により、別紙に示す日程で開催する運びとなりました。

近年、欧米諸国では難病、特に遺伝病に関わる難病に対し、遺伝子治療の有効性、安全性が数多く報告され、その一部の疾患では幹細胞移植の代替療法として認可されるに至っております。ただ、我が国においては遺伝子治療を支えるインフラの不備から、遺伝子治療を治療の一選択肢としてこれら難病を抱える患者様に提供できない状況にあります。このことを深く鑑み、この状況を打開するためには単に医師、研究者がその研究成果を発表するだけではなく、遺伝子治療に関わる全ての関係者ならびに実際の生活においてご苦労されている患者様やそのご家族が一堂に会し、「一体何が問題なのか」を明確にすることで少しでも我が国の遺伝子治療実施体制を整備していくことが重要と考え、このフォーラムは開催されました。

昨年度は海外から4名の研究者がお越しになり、各国の遺伝子体制を紹介されました。また、厚生労働大臣政務官であられました岡本充功衆議院議員から「我が国の難病研究の現状と将来」のテーマで講演を頂きました。そのため200余名という本当に多くの方がこのフォーラムに参加され、改めて遺伝子治療への期待感を感じずる次第でした。

今年度は、特に目、皮膚、神経・筋肉、骨格等の臓器に症状を来す疾患に焦点を当て、その分野における遺伝子治療の進捗情報をご報告する予定です。また、今年度は特別に患者団体の方から「我が国における難病治療の問題点等」をご指摘頂く予定であり、我が国の遺伝性難治性疾患に対する遺伝子治療の実情とその問題点を把握できる絶好の機会となっております。

本フォーラムに関し医師・研究者のみならず、創薬等に関わる企業の方々ならびに患者関係者各位にご参加頂きたく、ここにご案内申し上げる次第です。

謹白

実行委員長：衛藤 義勝（東京慈恵会医科大学遺伝病研究講座教授）

委員：小野寺雅史（国立成育医療研究センター成育遺伝研究部部長）

：大橋 十也（東京慈恵会医科大学DNA医学研究所副所長・遺伝子治療部部長）

：奥山 虎之（国立成育医療研究センター臨床検査部部長・ライソゾーム病研究センター長）

：藤本 純一郎（国立成育医療研究センター臨床研究センター長）

主催：厚生労働省難治性疾患調査研究班ライソゾーム病調査研究会（衛藤班）

国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム実行委員会

共催：厚生労働科学研究補助金（難治性疾患克服研究事業）（小野寺班）

厚生労働科学研究補助金（政策創薬総合研究事業）（奥山班）

後援：NPO 法人日本ライソゾーム病研究センター